

実践事例（４）

第 1、2、3 学年 体育科 ～効率的、効果的に行う異学年合同体育～（異学年同内容）

1 はじめに

小規模の学校では、人数が少なかったり、児童が在籍しない学年があったりすることから、異学年で合同の体育の授業を行うことが多い。ゲームやボール運動の領域では単学年で活動することが困難な内容もある。そこで異学年合同で体育を行う場合、単元計画をどのように立て、評価するかが課題となってくる。本校では、4月と10月に体づくり運動を位置付けている。本実践は10月に行ったものである。本実践では、体ほぐしの運動を単元化し、1、2、3年の異学年合同で行った。

次のように学習指導の工夫を行い、授業の改善を図った。

- (1) 年間指導計画と評価規準の見直し
- (2) チャレンジ運動を取り入れることで、お互いを認め合う態度の育成を目指す。

2 実践例

(1) 単元名

第 1・2 学年	第 3 学年
体ほぐしの運動（体づくり運動領域）	

(2) 単元目標

	第1・2 学年	第 3 学年
運動	○ 心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなで関わり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をする。	○ 心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなで関わり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をする。
態度	○ 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりする。	○ 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の扱い方の安全に気を付けたりする。
判断・思考	○ 体づくりのため、簡単な運動の行い方を工夫する。 ○ 体を動かすと気持ちがいよいに気付き、友達と一緒に運動をしたり、用具を使って運動したりするなど楽しく運動できる行い方を選ぶ。	○ 体づくりのため、簡単な運動の行い方を工夫する。 ○ 運動の仕方によって気持ちが変わることに気付き、友達と一緒に運動をしたり、用具を使って運動したりするなど楽しく運動できる行い方を選ぶ。


(3) 単元の指導計画

時間	学習内容	評価規準	
		1・2 年	3 年
1	○ 体ほぐしの運動について知ろう。 ・楽しむ運動 ・チャレンジ運動	○ 体ほぐしの運動に進んで取り組もうとしている。 ○ ペアやグループで協力しようとしている。 〈関・意・態〉（観察）	○ 体ほぐしの運動に進んで取り組もうとしている。 ○ ペアやグループで協力しようとしている。 〈関・意・態〉（観察）
2 3 (本時その2)	○ ストレッチ ・ ○ 体ほぐしの運動をしよう。 楽しむ運動（第1時） ・風船バレー ・ボールわたし チャレンジ運動（第1時） ・棒パス ・平均台並び替え	○ きまりを守り、仲よく運動しようとしている。 ○ 場の安全に気を付けようとしている。 〈関・意・態〉（観察）	○ きまりを守り、仲よく運動しようとしている。 ○ 場の安全や用具の扱い方に気を付けようとしている。 〈関・意・態〉（観察）

	(第2時) ・ボールはさみ列車 ・風船パス	(第2時) ・ジャイアントウォール	○ 友達のよい動きを見付けることができる。 (思考・判断)(発言)	○ 友達のよい動きを見付け自分の動きに取り入れようとする。 (思考・判断)(発言)
○ 楽しむ運動…仲間や器具との触れ合いを通して、触れ合うことの楽しさや体を動かすことの楽しさを味わう運動				
○ チャレンジ運動…協同的な活動の過程において、仲間で助け合ったり信頼して任せたりしながら、集団での達成による喜びを生み出すことをねらいとする運動				

(4) 本時の指導

- 1 ねらい
 - ペアやグループで協力して、体ほぐしの運動に進んで取り組もうとする。(共通)
 - 場の安全に気を付けて、運動に取り組むことができる。(低学年)
 - 場の安全や用具の扱い方に気を付けて、運動に取り組むことができる。(中学年)
- 2 準備物
風船、ボール、跳び箱、セーフティーマット、マット
- 3 展開

時間	主なねらい・学習活動	教師の働き掛け	評価	
			1、2年	3年
5	1 準備運動をする。 個人→ペア→グループ	○ 音楽に合わせて友達と交流することで、心と体がほぐれるようにする。 ○ リズムやテンポを変え、様々な動きをすることで、自分の体と友達の体の動かし方の違いに気付くようにする。		
3	2 前時を振り返り、今日の活動内容や気を付けることを確認する。	○ 活動する際の留意点を確認する場をもつ。 ・仲間と協力すること。 ・失敗しても仲間を責めないこと。 ・課題が達成できたら、全員で決めた喜びの表現(ポーズ)をすること。		
10	3 楽しむ運動をする。 ・ボールはさみ列車 ・風船パスをする。 ペア→グループ			
25	4 チャレンジ運動をする。 ・ジャイアントウォールをする。	○ チャレンジ運動の三つの約束を確認する。 ○ より安全に行うことができるよう、常に場の安全を確認しながら指導する。	○ 仲間と協力してチャレンジ運動に進んで取り組んでいる。 ○ 自分や友達がけがをしないように気を付けている。	○ 仲間と協力してチャレンジ運動に取り組んでいる。 ○ 用具の扱い方にも気を付けて安全に活動することができる。
2	5 振り返りとまとめをする。	○ お互いのがんばりや、よいところを認め合う時間を確保する。	○ 友達のよい動きを見付けることができる。	○ 友達のよい動きを見付け、取り入れようとする。

3 考察

(1) 年間指導計画と評価規準の見直し

体ほぐしの運動の単元では、1、2、3年生が同内容で行うため、発達段階による評価規準をいくつか設定した。

第1、2学年	第3学年
① 自分や友達がけがをしないように周りに気を付けて活動することができる。	① 自分や友達がけがをしないように周りに気を付け、用具の扱い方にも気を付けて安全に活動することができる。
② 友達のよい動きを見付けることができる。	② 友達のよい動きを見付け、自分の動きに取り入れることができる。

また、年間指導計画の見直しを行い、体育科の領域構成や各領域の内容などを吟味し、6年間を見通した年間計画の見直しを行った。教職員の異動などで、内容の重なりや、指導の抜けがないよう、確認しながら指導に当たることが重要である。

本校の年間指導計画（1学期）

（AB年度方式と学年別異内容の折衷案）

	年度	4月	5月	6月	7月
第1・2学年	A	体ほぐし 遊具遊び 鉄棒遊び	かけっこ リレー けんぱー 幅跳び遊び	水遊び	水遊び
	B		器械・器具を使った運動 遊び		
第3学年	A	体ほぐし 多様な動き 鉄棒運動	かけっこ リレー 幅跳び	浮く・泳ぐ運動	浮く・泳ぐ運動
	B		跳び箱運動 高跳び		
第5・6学年	A	体ほぐし 体力を高める 鉄棒運動	短距離走 リレー 走り幅跳び	水泳	水泳
	B		跳び箱運動 走り高跳び		

(2) チャレンジ運動の有効性

チャレンジ運動は、「仲間との交流」を主な目標としており、技能の向上を目標としていない。少人数のクラスでは、人間関係が固定化しやすく、年間を通してあらゆる場面で人間関係を改善することが必要となってくることから、今回チャレンジ運動としてジャイアントウォールに取り組んだ。ジャイアントウォールは人数に制限がなく、どのような人数でも比較的自由に行うことができ、男女・学年関係なく協力して取り組む姿が見られた。チャレンジ運動を取り入れることで、「仲間との交流」を深めることができ、非常に有効であった。

チャレンジ運動・三つの約束

- (1) 仲間と協力すること。
- (2) 失敗しても仲間を責めないこと。
- (3) 課題が達成できたら、全員で決めた喜びの表現（ポーズ）をすること。

チャレンジ運動の例

ジャイアントウォール

ステージの下から壁に見立てたマットと跳び箱の障害物をグループで協力しながら全員で登る。

ルールの例

- ・一度上に上がった人は下に降りることはできない。
- ・マットのふちやもち手はつかんではいけない。



風船運び

グループで手をつないで、風船を落とさないように運ぶ。

落とした場合はスタートからやり直しをする。



倒さないでね

円になって、棒を倒さないように隣の人の棒をつかむ。倒さないように1周まわれば成功。



平均台並び替え

平均台の上で誕生日順、アイウエオ順などに並び替える。誰かが落ちたり、マットに触ってしまったらやり直し。



4 おわりに

異学年合同で体育を行うには、6年間を見通した年間計画を工夫して作成し、効率的に授業を行うことが大切である。また、体ほぐしの運動は技能の向上を目的としているのではなく、意欲・関心・態度や思考・判断の観点を中心に評価を行う領域である。上学年のリーダー性の育成もしやすく、本単元は異学年合同での活動に向いていると感じる。

参考文献

「チャレンジによる仲間づくり」ダニエルW・ミドゥラ ドナルドR・クローバー著 高橋建夫監修
大修館書店

「異学年合同体育の指導資料」研究代表者 清水 将